

# 農学部の メインストリート



## 昭

和14年（1939年）の「思ひ出」と題された卒業アルバムからの一コマです。農学部2号館から1号館を写したものとされます。

尖りアーチの入口にたたずむ学生達を逆光でとらえた印象深い写真ですが、ここに静謐さを与えているもの、一つが、背後に見える池です。記録がなく残念ですが、この池は少なくとも2号館の竣工した昭和11年には存在していたようです。現在もあるヒマラヤスギを挟んで、矩形の池があつたようで、1・2号館の建設にあわせて、弥生キャンパスのメインストリートというべき空間が、水面と樹木からなる端正な広場として整備されたものと思われまふ。本郷キャンパスの正門や赤門内の通りは中央が通路で両側が並木であるのに対し、弥生では中央が緑地である点が対比的です（現在の両側のイチヨウ並木は戦後追加されたものです）。

この池は防火用と美観を兼ねて設けられたものと思われ、昭和50年（1975年）頃までは存在し、會田現研究科長によれば蓮が咲き金魚などもいたそうです。また會田先生が能勢幸雄名誉教授（昭和25年卒）から伺った思い出によると、能勢先生が卒業した頃には淡水クラゲがいたとの話もあります。その後この池は姿を消しましたが、実はまったく撤廃されたわけではなく、地下に消火水槽として一部が残され現在もあり、地上部は植込みなどで覆われています。

この広場の最近の整備としては、平成15年（2003年）に、農正門入口のスタジイの樹勢回復などの目的から、4本あつたヒマラヤスギのうち2本が伐採されました。伐採木は安藤直人教授の監修で、幹材はもちろん枝葉に至るまで、ベンチや舗装材として、現場ならびに周辺に利用され、資源の再利用だけでなく場所の記憶を継承するよう考慮されています。（ところでこの写真が1号館から2号館を写したのではないとなぜいえるのか？と疑問の方は、両館の玄関造りの違いを一度実際に注意深くご覧になってみてください。）

森林風致計画学研究室 小野良平 助教授